

2002年度秋季大会シンポジウム 「環オホーツク研究の新しい視点」報告

はじめに

大西晴夫*

オホーツク海の流水は、北半球で最も低緯度（南）に存在することは良く知られている。また、環オホーツク域は地球温暖化の影響が最も顕著に現れる場所とも言われ、事実、オホーツク海沿岸の流量は確実に減少している。一方、オホーツクの海水やオホーツク高気圧は、北半球の気候や海洋循環にも大きな影響を及ぼしている。更に、爆弾低気圧や石狩湾小低気圧などの激しいメソ擾乱が発達する場所でもある。このように、環オホーツク地域は気象学的にも海洋学的にも極めて興味深い地域であるが、これまでは詳細な観測が不可能であった。しかし、最近オホーツク海域で海洋を中心とした集中観測が行われ、新たな事実が見出されつつある。面白いことに、このような新たな観測事実がかつて存在した環オホーツク文化とも密接に関連していることも分かってきた。

実は、北海道の紋別市では毎年海水研究を中心とし

た「オホーツクシンポジウム」と「環オホーツク文化のつどい」が同時開催されている。本シンポジウムはこれらの活動に啓発され、また“オホーツクビーナス”の美に魅せられて企画したものである。環オホーツク研究を単なる高緯度地域の研究としてではなく、かつて存在した環オホーツク文化のように、オホーツク海周辺を研究の中心に据える新たな視点を理解していただければ、シンポジウムを企画したものとして望外の喜びである。

最後に、講演者の方々、講演の合間に流した冬のオホーツク沿岸風景の貴重な記録映像を快く貸していただいた北海道大学低温科学研究所附属流水研究施設の白澤会員、本シンポジウムに参加された皆様、そして会場の準備等でご尽力頂いた日本気象学会北海道支部の方々はこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

* 大会委員長：札幌管区気象台長(現 大阪管区気象台)。

—2003年4月7日受領—

—2003年5月12日受理—

(Report on the Symposium of MSJ Fall-Meeting 2002)
New Research Aspect of the Pan-Okhotsk Region

Haruo OHNISHI

(Corresponding author) *Sapporo District Meteorological Observatory* (Present address ; Osaka District Meteorological Observatory)

(Received 7 April 2003 ; Accepted 12 May 2003)

Contents

1. Toshihiko KIKUCHI : Archaeology of the trading in the pan-Okhotsk region.
2. Kay I. OHSIMA : The east Sakhalin current and sea ice.
3. Yoshio ASUMA : Explosively developed cyclones around the Sea of Okhotsk and their role in transportation of water vapor.
4. Hisashi NAKAMURA : The cool Sea of Okhotsk and the atmospheric circulation variability.

305 (環オホーツク海；セイウチ)

1. 考古学からみた環オホーツク海交易

菊池俊彦*

1. はじめに

ロシア人は16世紀末、1581年にウラル山脈を越えてシベリアに進出してから、17世紀に入ると瞬く間にシベリアを東に横切り、わずか50年余りで、1639年にはオホーツク海に到達し、また1648年にはベーリング海に出た。シベリアにはさまざまな民族が居住している。19世紀後半から20世紀初めにかけての東シベリアの先住民の分布を見ると、大きく分けて、ツングース諸民族が広汎に居住し(第1図)、古アジア諸民族はアジアの端に住んでいる(第2図)。

オホーツク海の北岸、カムチャツカ半島の北半部の

コリヤーク自治区とその周辺地域には少数民族であるコリヤーク民族が居住している。その全人口は1989年の統計では8,942人である。1950年代中葉からかつてコリヤーク民族が居住していたマガダン市周辺とその東方地域で考古学調査が行われ、新石器時代・鉄器時代の遺跡が発掘された。これらの遺跡とその出土遺物の文化複合はコリヤーク民族の古代文化を示すものとして、古コリヤーク文化と呼ばれている。それらの遺跡のひとつ、マガダン東方のスレードニヤ湾南西岸の集落跡の住居址から1枚の銅銭「皇宋通宝」(第3図中の1)が発見された(Vasil'evskij, 1971)。それは中国で北宋(960-1127年)の宝元2年(1039年)から15年間、鑄造された貨幣である。中国の貨幣は遙か遠いこの地域にどこから、どのようにしてもたらされたのだろうか

* 北海道大学大学院文学研究科。